

岐阜県職員倫理憲章 生活技術研究所実行計画

平成18年7月に発覚した不正資金問題に対する深い反省と再発防止への固い決意とともに、岐阜県職員としての基本理念を示すために平成18年12月28日に制定した「岐阜県職員倫理憲章」の内容を実践していくために、下記のとおり生活技術研究所実行計画を定めます。

令和7年4月1日

1 法令を遵守するとともに、自らを厳しく律します。

- ・ 法令に照らして判断・行動し、疑惑や不信を招くことのないよう努めます。
- ・ 不当な圧力や働きかけに左右されることなく、誰にでも公平、公正に対応します。

【取組事項】

- 地方公務員法が定める守秘義務や、情報公開制度、個人情報保護制度の趣旨等を職員に徹底し、情報の適正な管理、取扱いに努めます。
- 職務上利害関係がある者との会食や遊技、金銭・贈答品の譲受等の行為については、「岐阜県職員倫理規程」にて規制されている旨、職員に徹底するとともに、職務上面談が必要な場合においても、オープンスペースにおいて、職員2人以上で応対することを原則とします。
- 過去の不祥事事案を題材に、職場研修を実施し、公務、私生活を問わず、「県民の信頼を裏切る行為」に対しては、厳しい処分が課されている現実について、職員の認識を深めます。
- 職務執行に対する不法・不当要求には、職員個人や担当窓口のみの対応に任せず、所属全体で対応するとともに、危機管理部門等関係部署との連携を密にし、協働して対処に当たります。
- 通勤途上や出張時などの勤務中はもちろん、勤務時間外においても交通法規を遵守し、無事故・無違反を徹底します。
- 研究活動におけるコンプライアンス教育を実施し、研究の立案、計画実施、成果のとりまとめ（報告を含む）において、健全な研究活動を保持します。

2 税の重みを深く認識し、無駄のない行政を進めます。

- ・ 経費の節減を徹底し、最少の経費で最大の効果を挙げるよう努めます。
- ・ 前例にとらわれず、常に業務を点検しながら見直しを図ります。

【取組事項】

- 予算化された事業であっても、「予算の残し方事例集」等を活用し、徹底的な経費の縮減に努めます。
- 事務用品の在庫管理の徹底、再利用の促進や、両面・縮小コピーの積極的な活用などにより、事務経費についても一層の縮減を図ります。
- 昼休みにおける消灯や残業時の部分消灯に努め、経費節減に努めます。
- 研究経費においても最少の負担で最大の成果が生まれるよう、公金意識をもって研究業務、技術支援に当たります。
- 管理職員による組織のマネジメントを強化し、職員に時間管理の重要性を徹底するとともに、事務の効率化の促進等により、時間外勤務の縮減に努めます。

3 県職員としての自覚を高め、質の高い行政サービスを提供します。

- 専門的な能力・知識と、幅広いものの見方・考え方の修得に努めます。
- 法的根拠や仕組みを理解し、迅速・丁寧に業務を進めます。

【取組事項】

- 日頃から、所管業務に関する知識の習得など、自己研鑽に努めます。
- 職員が、業務に関連した学会、研修会等に参加し、専門的能力・知識を習得するなど、常に自己研鑽に努めます。
- 研究開発・技術支援への対応、行政改革への推進などに向けて、新聞やインターネット等から海外や国、他県、民間企業の動向などの情報収集を積極的に行い、収集した情報を職員全員で定期的に回覧して情報の共有を図ります。

4 常に危機に備える意識を持ち、事故や不祥事を防止します。

- マニュアルを整備するなど、日頃からのチェック体制を確立します。
- どのような情報にも細心の注意を払い、組織としていち早く対応します。

【取組事項】

- 各種危機管理対応マニュアルを参考にしながら、想定される事案ごとに連絡方法や役割分担を定めるなど、所属内の危機管理体制を整備します。
- 県内外の自治体や民間企業等で発生した危機事例について、その原因、対応策等を分析し、所属内の危機管理体制の見直しや職員の危機管理意識の向上等に役立てます。

5 問題発生時には、事実をありのままに公表し、迅速かつ誠実に対応します。

- 正確な情報の把握・公表に努め、責任の所在を明確にした上で問題の拡大を防ぎます。
- 徹底した原因究明を行い、適切な再発防止策を講じます。

【取組事項】

- 問題発生時には、所長の指揮のもと、速やかな情報収集・報告・分析や、応急対策（被害の拡大防止、2次災害の防止等）の実施等に当たります。
- 危機管理広報事案については、産業技術課等と連携を図りながら、「岐阜県危機管理広報マニュアル」に則って、透明・正確・迅速な情報発信に努めます。
- 問題が発生した原因の究明や、再発防止策の構築に当たっては、職員による多面的・多角的な検討を行います。

6 職員が一丸となって、風通しのよい組織風土をつくります。

- 自分の職責にとらわれず、知恵を出し合い、自由な議論ができる職場をつくります。
- 不都合な情報こそ速やかに包み隠さず明らかにできる組織をつくります。

【取組事項】

- 試験研究部の毎週の打ち合わせや職員会議などを定期的に実施し、研究等業務の進捗状況等について職員間の情報共有を図るとともに、課題やその解決方法等について自由闊達な議論を行います。
- 管理職員は、定期的な職員面談を実施し、職員の日頃の考え方や悩み等の把握に努めるとともに、気軽に議論・意見具申できる雰囲気づくりに努めます。

7 県民のひとりとして、積極的に地域や社会に貢献します。

- ・ 地域での活動に積極的に参加します。
- ・ 環境問題などの社会を取り巻く身近な課題に率先して取り組みます。

【取組事項】

- 職員に対して、地域活動等（地元の消防団や自治会、ボランティア活動など）への積極的な参加を奨励します。
- 時間外勤務の縮減や、年次休暇の計画的な取得の促進等により、地域活動等が行いやすい職場環境づくりに努めます。
- 環境にやさしい物品の購入や、買い物時におけるマイバッグの持参等、地域においても、環境保全運動に率先垂範で取り組みます。
- 環境美化ボランティアとして、研究所周辺の環境美化活動を定期的に行い、地域への貢献に努めます。

8 県民との対話を大切にし、県民とともに「確かな明日の見えるふるさと岐阜県づくり」に取り組みます。

- ・ 県政全般にわたる情報を分かりやすく、積極的に公開します。
- ・ 積極的に現場に出かけ、県民の意見や考えをお聴きし、政策・施策に活かします。

【取組事項】

- 研究所の概要や研究成果及び新着情報等をホームページで逐次公開し、またマスコミなどの広報媒体を効果的に活用して、有益な情報を誰にでもわかりやすい丁寧な表現で、県民・企業の皆様に適時・的確に提供します。
- 県民・企業等の意見を取り入れるため、研究員自らが企業ニーズの取得に努め、研究課題の発掘や技術支援の方針等につなげていきます。
- 県内企業や業界団体からの技術相談に対しては、親身になって丁寧に対応し、積極的に現場に出かけて技術支援します。